令和4年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会　大会総評

報告者：高体連技術部員　熊谷高校　田渕常夫

大会概要

(1)レギュレーション

ノックアウト方式で、7月24日(日)から30日(土)に徳島県にて開催された。全国地区予選を勝ち抜いた52校（公立15校、私立37校）が出場した。出場辞退となったのは1校で、厳しい静岡県予選を勝ち抜いた磐田東がプレーできなかったのはとても残念であった。1回戦から3回戦までの３連戦の後、1日休養日が設けられ、その後、準々決勝から決勝まで３連戦の日程である。会場は、鳴門・大塚スポーツパークポカリスウェットスタジアム他９会場で多くの試合が天然芝ピッチで行われた。天候には恵まれたため35℃を超える猛暑日もあった。第1試合は9:15、第2試合は11:30キックオフであったので、コンディションのピーキングや暑熱など各チームで対策が必要であった。70分ゲームで行われ、勝敗が決しない場合は、PK方式によって決定した。ゲーム中には、クーリングブレイクと飲水タイムが前後半ともに1回ずつ設けられた。ゲームの流れが分断される事になるが、選手のコンディションの維持だけでなく、クーリングブレイクでのミーティングにより選手の交代や戦術の変更など、ゲームの質を高める工夫を各チームが行っていた。

(2)最終結果

優勝は前橋育英（群馬県）、準優勝が帝京（東京都）、３位となったのは昌平、米子北（鳥取県）。優勝した前橋育英は攻守において意図的かつ組織的なプレーが素晴らしかった。特に、守備から攻撃の切り替えでボールをコントロールし攻撃へとつなげていた点が優れていた。準優勝の帝京はボランチを中心としたミドルプレッシングでのボール奪取やゴール前での粘り強い守備が印象的である。昌平はテクニックに優れていて、米子北については連動した組織的な守備が強固に構築されていた。ベスト4ではプレミアリーグ1校、プリンスリーグ3校であり、ベスト8ではプレミアリーグ2校、プリンスリーグ5校、FA1部リーグ1校となった。ベスト16ではプレミア3校、プリンス8校、FAリーグ5校であった。プレミアやプリンスなど上位リーグのチームだけでなく、FAリーグ所属のチームの活躍も光った。特に、丸岡（福井県）や湘南工科大附（神奈川県）はしっかりとスタイルを持った好チームであった。リーグ戦を通して、選手とチームの強化が進んだ結果、インテンシティの高い試合が多く見られた。過密日程や酷暑にも関わらず、インテンシティの高い試合が多く観られたのは各チームのコンディションマネジメントの賜物でもあると思う。しかしながら、さらなるクオリティの高さを求めるためにゲーム環境の改善に取り組む必要もあると感じた。

大会の傾向

(1)技術・戦術的分析

・攻撃

優先順位を意識したパスや動きについては優れていたが、意図の薄いパスと感じられる単調なロングボールが多かった。

・守備から攻撃の切り替え

積極的にゴールを目指す意識が高く、追い越す動きや飛び出しなどが多く現れたが、奪ったボールをすぐに失ってしまうことが多く、状況判断やサポートの質、テクニックに課題がある。

・守備

ゴール前でのシュートブロックやカバーリングなど粘り強い守備は目を見張った。その一方、クロスの守備対応は甘く、予測とポジショニングや同一視・体の角度などのテクニックは改善が必要である。また、ロングボールの攻撃に対する処理が多いためか、前線や中盤での意図的な守備を行えるチームは少なかった。

・攻撃から守備

切り替え時に奪い返す意識が高く、スピードを持った積極的なチャレンジを行っていて、ボール周辺では好プレーが多かったが、カウンター時のリスクマネジメントや状況に応じた対応など、予測のための情報収集や守備の優先順位に伴った判断が欠けていた。

(2)GKの分析

・大型化

GKは52チーム107人登録され、平均身長は178cm、185cm以上は13人、190cm以上は3人となった。大会優秀選手GKである2名の身長は、雨野壮真（前橋育英2年）184cm、川瀬隼慎（帝京2年）178cmであった。

・攻撃

ビルディングアップにおいてパスとコントロールの質やサポートのポジショニング、攻撃の優先順位を意識したパスが良かったが、非利き足でのプレーの質の向上が必要である。ボレー（サイドボレー）でのディストリビューションでは効果的な攻撃が見られたが、オーバーアームスローの技術の向上も今後期待したい。ゴールキックからの攻撃ではショートパスからの工夫したビルディングアップも行われたが、ディストリビューション、ゴールキックやフリーキックからの攻撃では時間を使ってのロングキックが多かった。

・守備から攻撃の切り替え

攻撃の優先順位を意識した素早いパスでチャンスを生み出していた。さらに、ゲーム状況に応じたパスの判断が良くなれば攻撃の質が高まることが期待される。

・守備

シュートストップの技術は向上している。特に、ポジショニングや掴む弾くの適切な判断を伴うテクニックの発揮が良かった点である。クロスの守備においても、積極的なチャレンジが多く、状況に応じたテクニックの選択は素晴らしかったが、クロスに備える予測とポジショニングや視野を確保する姿勢など向上させるべき点もあった。ブレイクアウェイについては予測とポジショニングの意識の高さがみられた。さらに、DFと連携して守ることができるようになれば、もっとボールが奪えるようになる。コーナーキックとフリーキックの守備では、DFとの連携でプレースペースの確保、出る出ないの判断、密集での適切なテクニックの選択を向上させていきたい。

・攻撃から守備への切り替え

リスクマネージメント、スターティングポジション、DF背後へのボールの判断など、この局面については課題があると感じた。

昌平（埼玉県代表）について

全国大会においても個人技の質の高さは際立っていた。安定したポゼッションを行うことができるので、チャンスを多く作り出すことに成功していた。優れたタレントがそれぞれの特徴をどのように活かすかをよく考えてプレーしていた。大会優秀選手には4名が選出された。DF津久井は抜群のサッカーセンスでチームを牽引。準々決勝で負傷交代し、準決勝でプレーが見られなかったのは残念であった。少しでも早く完治し、ピッチに戻ってきてほしいと願う。MF土谷は長短のパスを相手守備状況に応じて使い分けチームの攻撃をコントロールした。また、セットプレーのキックの質の高さを見せた。MF篠田は４得点で大会得点王になった。狭いスペースでのボールキープから突破する力があり、苦しい状況下から一変してチャンスを生み出していた。MF荒井は、爆発的な突破力で得点に絡むプレーで存在感を示した。左足のキックは素晴らしく、セットプレーでも活躍した。

1回戦　生駒（奈良県）

落ち着いた試合運びで終始昌平ペース。中盤でのボール保持からチャンスを作り出した。ダブルボランチのMF土谷、MF佐藤が中盤を安定させた。後半から出場したFW平が攻撃の起点となり攻撃を活性化させていた。CKから２得点、流れの中から１得点、失点０で勝ち上がった。

2回戦　星稜（石川県）

前半、星稜のハイプレスに苦しむ。星稜は、昌平の右サイドを執拗に攻め込む。MF荒井を押し下げ、DF津久井を引っ張り出そうとする。しかし、MF土谷を中心にゲームをコントロールし始める。MF篠田のキープ力を活かし、左サイドでの保持率を高めると徐々に昌平ペースになる。前半の終了間際には、プレスが曖昧になった一瞬の隙をつき、土谷のロングパスから篠田が抜け出し先制点を奪う。後半は、昌平ペースで試合を運び、２得点を追加する。後半終了間際に失点するも3-1で勝ち上がる。

3回戦　日章学園（宮崎県）

前半、幸先よくPKで先制するも、ミドルシュートで失点し、追いつかれる展開。後半、日章学園の中盤での激しいプレスに苦しむ。中央エリアからのシュートのこぼれ球を押し込まれ、勝ち越される。しかし、クーリングブレイクでMF佐々木を投入すると一気に攻撃のギアが上がる。MF篠田が混戦から押し込みゴールを奪うと、直後にFW小田とのコンビネーションから佐々木が逆転ゴールを奪う。さらに、佐々木が背後へ抜け出し追加点、この後もMF荒井と篠田がゴールする。約１０分間で５ゴールという驚異的な攻撃力を見せつけた。

準々決勝　大津（熊本県）

前半、DF津久井が負傷し交代。CKから先制点を奪うも、ビルディングアップでタクトを振っていた津久井を失ったことで攻撃のリズムが掴めない。大津の攻撃に対し、GK上林を中心にゴール前の粘り強い守備で１点を守り切り準決勝に駒を進めた。

準決勝　帝京（東京都）

前半は昌平ペース。ミドルサードで相手DFへの激しいプレッシングからカウンターを効果的に打ち、チャンスを作るが、得点が奪えない。後半、帝京の中盤とゴール前における粘り強い守備を攻略できずにいると、昌平は左サイドをコンビネーションプレーから崩されクロスを上げられる。このクロスの対応のミスから相手に押し込まれて失点する。この一点を守り切られて準決勝敗退となった。

おわりに

大会を通じて、インテンシティの高い試合が多く見られた。日常のサッカーにおいて、インテンシティの高さを意識している結果が現れているように思う。リーグのカテゴリーは様々であるが、それぞれの置かれた状況で逞しさを求めてサッカーすることが改めて重要であると感じた。その中で、プレーのクオリティを求めていくことが必要になる。今大会を通じて、個人戦術やテクニックの追求、オフザボールでのプレー、切り替えの局面でのプレーなど高体連チームの課題が確認できた。日々、サッカーの質を向上するためにみんなで取り組んでいきたい。

埼玉県代表の昌平高校は全国大会においても質が高かった。素晴らしいゲームを見せてくれたことを称賛したい。さらに、埼玉から良い選手が育成できるよう各チーム切磋琢磨したい。